



私は、大学4回生の1年間、フランス語学科の派遣留学生の1人としてアンジェ・カトリック大学へ留学をしていました。アンジェはフランス北西部に位置し、パリからTGVで1時間半と比較的交通の便のいいところにあり、また、フランソワ1世がたくさんの城を建設し、フランス文化の中心地となったロワール河へ近接しています。アンジェにもアンジェ城と呼ばれる城があり今も形を残していますが、このお城は中世に要塞として使われたために、ロワール河のそれとは正反対で、華やかではなく男性的です。誰もが、アンジェ城の城壁を見たときに、威圧感を感じることでしょう。現在では、このお城の地下に、「黙示録」のタピスリーがあり観光地の1つになっています。1年を通して雨が降ることが多く、なんとなく気分が沈むような時もありましたが、春になれば街の至るところに花が咲き乱れ、系統的に上流階級の血を引く人が多く、一見スノッパで近寄りたいたい感じを受けますが、とても暖かい人々と一緒に過ごすことができ、幸せでした。

私が、アンジェに滞在中よく行った図書館は2つあります。アンジェ・カトリック大学の付属図書館と、街の図書館です。留学中は宿題がとても多く、そして毎月1度全教科の試験があったので、平日は大学の図書館へ、そして土曜日は街の図書館へよく通っていました。一緒に住んでいたマダムにも驚かれ、土曜日には何も言っていないのに出かけるときに「図書館へ行くの？」と尋ねられ、すっかり行動を見破られていました。大学図書館は2階建てになっており、1階は留学生が、そして2階はフランス人学生が主に使用していたように思います。また、留学生にはアジア人が多かったために、本当にここはフランスか？と思うこともありましたが、みんな真面目に勉強していたので、刺激を受けることが多かったです。そして何よりも私が気に入っていたのは、大学図書館が光を取り入れた設

計になっていたことです。中庭が見えなくても気持ちよかったです。また、冬には日が短くなるために、朝1番に図書館へ行って窓側に座っても、太陽がでておらず、日光を待ちながら勉強したこともありました。



アンジェ城城壁

日本とフランスの図書館ではシステムも異なっていることも多く、コンピュータを使っているのはなかなかうまくできず、初めて本を借りるときには多少のとまどいもありました。そんな中で、1人のフランス人の司書と出会えたことは、私の留学中の大切な1つの思い出でもありません。夏期講習の時に、プレゼンテーションをしなければならぬことがありました。テーマはもう決まっていたのですが、資料を集めるのに苦労していた時にちょうどレファレンスに座っていたのが彼女でした。閉館時間が間近であったにも関わらず、私を助けてくれました。大量の新聞のバックナンバーを手配してくれて、その次の日も閲覧できるようにしてくれました。この時以来、顔を合わせると挨拶をするようになり、ある寒い日に薄着をしていた時にショールを貸してくれたり、本当にお世話になりました。

図書館は、勉強する場所です。しかし、利用者の身になり、用途を広めてみると、人と会える大切な場所だということを私はこの留学により学びました。私は、大学3回生の時に、京都外国語大学の図書館でアルバイトをしており、在学中に利用しましたが、こういう体験してみると、普段やプロゼミの研究をする際に、果たして自分は図書館を最大限に利用していたのか？と問いかけてしまいます。図書館は、自分の知識と人との出会いを広める素敵な場所です。ですので、在学生のみならず、図書館を最大限に利用してくださいね！

あべ さとこ

(フランス語学科 2001年度卒業生)